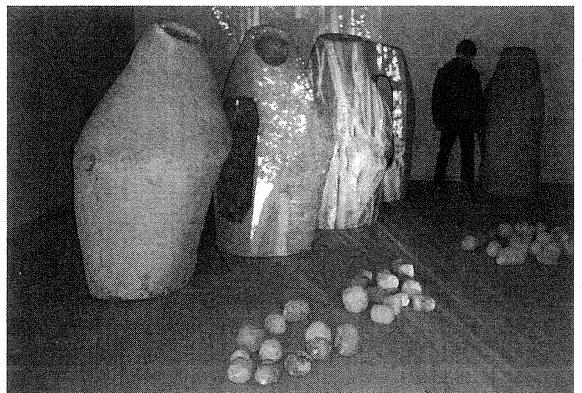


## 在外研修とドマーニー展

**在**外研修という制度をご存じでしょうか。新進芸術家海外留学制度といって、昭和42年度から多くの芸術家に海外研修の機会を提供してきました。美術・音楽・舞踊・演劇・舞台芸術等・映画・メディア芸術といった分野があり、開始の当初は分野も少なく各分野数名程しかいなかったのですが、その後規模が拡大され、今では例年170名前後の研修生を送り出しています。これまでの研修生は累計で2,000名を超えるました。研修の領域も広がっており、美術の分野といえば、芸術家ばかりでなく、美術教育、アートマネジメントといった研究や普及の領域にまで及んでいます。派遣期間は1年、2年、3年、80日間の特別派遣という枠があり、毎年7月に募集を行っています。

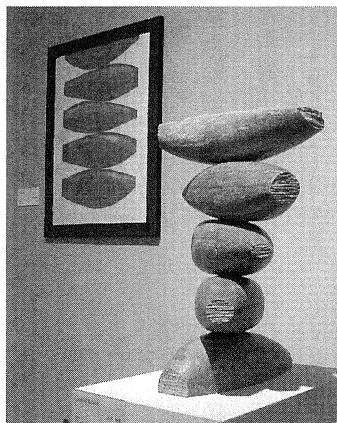
芸術家がその活動を展開していくうえで、留学が必要なのかどうかは、それぞれ考える分かれる所でしょう。しかし美術における価値観が、国際的な評価から切り離して考えにくくなり、また作品流通のマーケットが国内だけに閉じたものでなくなっている今日、海外における芸術のあり方に触ることは、多くの作家や、美術に携わる方々にとって大変に有益な経験になるのではないかでしょうか。美術分野に関していえば、在外研修のほかにも、いくつかの財団の奨学金による留学プログラムも知られており、それらによって国際的な活動の基盤を築く作家も増えてきました。海外での研修を芸術家としての経験に生かすために、この制度を活用していただけたらと思います。

また美術分野の研修生の成果を発表するために、「ドマーニ・明日」という展覧会を毎年開催しています。ドマーニ (domani) はイタリア語で「明日」を意味します。美術の明日を担う作家たちの紹介ということです。この展覧会は平成10年から損保ジャパン東郷青児美術館で開催され、分野と派遣年度をずらしながら開催し、すでに9回を



榆木令子

『Another Landscape』



大井秀規

『Grand Level』

(ともに「ドマーニ・明日 2006」出展作品)

数えました。

**今**年の1月から3月にかけて開催された前回の展覧会では、平成9年度から14年度に、彫刻・現代美術の分野において派遣された、前田哲明・塩野麻理・大井秀規・榆木令子・中山ダイスケ・棚田康司・横溝美由紀・中ザワヒデキ・土岐謙次の9名の作家を紹介しました。平面や立体といった範疇に入るものばかりでなく、榆木氏や横溝氏のように、ブースをいっぱいに使ったインスタレーション（設置された作品）と呼ぶほかないものもありました。こういったユニークな作品を発想していくうえで、それぞれの海外経験が寄与しているのはいうまでもありません。アイデア、素材、手法、そのどれをとっても作家個々に異なる作品が並び、観客を楽しませていました。海外での生活と制作という体験が、個々の芸術家に与えるものを検証する機会として、多くの方にこの展覧会を観ていただけたらと考えております。

文化部芸術文化課  
芸術文化調査官

野口玲一

